

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成23年8月12日

【四半期会計期間】 第40期第1四半期(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

【会社名】 株式会社インテージ

【英訳名】 INTAGE Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 宮首賢治

【本店の所在の場所】 東京都千代田区神田練堀町3番地 インテージ秋葉原ビル

【電話番号】 03-5294-0111

【事務連絡者氏名】 取締役 工藤 理

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区神田練堀町3番地 インテージ秋葉原ビル

【電話番号】 03-5294-0111

【事務連絡者氏名】 取締役 工藤 理

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第39期 第1四半期連結 累計期間	第40期 第1四半期連結 累計期間	第39期
会計期間	自 平成22年 4月1日 至 平成22年 6月30日	自 平成23年 4月1日 至 平成23年 6月30日	自 平成22年 4月1日 至 平成23年 3月31日
売上高 (千円)	7,940,695	7,435,861	36,538,189
経常利益 (千円)	806,402	109,172	3,438,806
四半期(当期)純利益 (千円)	434,199	50,852	1,915,908
四半期包括利益 又は包括利益 (千円)	430,439	62,002	1,873,879
純資産額 (千円)	12,313,786	13,316,246	13,757,072
総資産額 (千円)	23,069,049	24,017,066	24,660,129
1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	43.17	5.06	190.51
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	53.35	55.43	55.76

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

4 第39期第1四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

(市場調査・コンサルティング事業)

常州英徳知聯恒信息科技有限公司を新規設立したため、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

(医薬品開発支援事業)

SMO(治験施設支援業務)事業を営んでおりました株式会社アスクレップ・メディオの清算手続きが完了となったため、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1)業績の状況

わが国の経済は、これまで緩やかな回復基調にありましたが、3月に発生した東日本大震災により経済活動は一気に収縮し景況感は大いに悪化しました。また福島第一原子力発電所事故の収束が見えないなか、電力供給問題や環境問題も経済の先行きに影を投げかけ、厳しい経営環境下でのスタートとなりました。

かかる状況下、当社グループの当第1四半期連結累計期間の連結業績は、売上高7,435百万円（前年同期比6.4%減）、営業利益130百万円（同84.0%減）、経常利益109百万円（同86.5%減）、四半期純利益50百万円（同88.3%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりです。

#### 市場調査・コンサルティング

パネル調査分野は、各商品とも堅調に推移し、売上高はほぼ前年並みを確保いたしました。昨年の7月より開始したSCI-personalへの開発投資により、前年同期に対して経費増となっております。

カスタムリサーチ分野は、企業マインドの回復により6月単月の売上高は増加に転じましたが、震災の影響による経済環境の悪化を受けた4月、5月の減収が響き、当第1四半期連結累計期間は減収減益となりました。

この結果、市場調査・コンサルティング事業の売上高は5,152百万円（前年同期比2.1%減）、営業利益は157百万円（同71.4%減）となりました。

#### システムソリューション

システムソリューション事業は、震災の影響を受け当社の得意領域である旅行業界での売上高の減少が響き減収減益となりました。

この結果、システムソリューション事業の売上高は1,011百万円（前年同期比8.1%減）、営業損失は41百万円（前年同期の営業損失は9百万円）となりました。

## 医薬品開発支援

CRO（医薬品開発業務受託機関）業務では、モニタリング業務は堅調に推移しましたが、データマネジメント・解析業務においては新規業務の受注が不調だったことにより、減収減益となりました。

この結果、医薬品開発支援事業の売上高は1,271百万円（前年同期比19.3%減）、営業利益は15百万円（同94.5%減）となりました。

## (2)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等は次のとおりであります。

### 株式会社の支配に関する基本方針について

#### 基本方針の内容

当社の財務及び事業活動を支配する者には、当社グループの「THE INTAGE WAY」を十分に理解し、短期的な収益の確保のみならず、中長期的な視野に立って事業の持続的な成長性を追求し、当社の企業価値と株主共同の利益を維持・向上させていくことが必要であります。

当社は、当社の経営を支配しようとする大量買付者が出現した際には、当社の企業価値と株主共同の利益の維持・向上のための事業計画、財務計画、資本政策、当社の従業員、取引先、お客様等の利害関係者の処遇方針等についての十分な情報の提供を受け、当該提案等が当社の企業価値と株主共同の利益を維持・向上できるものか否かの観点に立ち評価・検討し、株主の皆様が客観的に判断できるよう情報を適時に開示するとともに、明らかに当社の企業価値と株主共同の利益を毀損するものである場合には、かかる買付行為に対し対抗措置を講ずる責任があると考えます。

当社は、以上のような考え方を当社の財務及び事業活動を支配する者の在り方に関する基本方針としております。

#### 取り組みの内容

##### イ．基本方針の実現に資する特別な取り組み

当社は持続的な成長性を追求するために、マーケティングリサーチ力とシステムソリューション力を基盤とした当社独自のビジネスモデルを推進することで、さらに企業価値と株主共同の利益向上を実現してまいります。

具体的には、当社の第10次中期経営計画（平成23年4月 - 平成26年3月）において、『生活者を起点とした新たな「知」の創造』を基本方針として掲げ、次の4つの重点課題に取り組むことによって、“Next 50”の成長に向けたグループ経営基盤の強化を図っております。

- ）当社の主要サービスである「消費者パネル」の質と規模の拡大進化
- ）生活者が発信する情報（ライフログデータ）から新たなインサイト（洞察、知見、より深い理解）を提供する事業の開発
- ）お客様の業界ごとに組織を編成しての成長戦略の立案推進
- ）お客様のグローバルシフトに対応した海外での事業展開

ロ．不適切な者によって支配されることを防止する取組み

当社は、平成19年6月22日開催の第35回定時株主総会での決議を経て、買収防衛策を導入いたしました。以後、有効期間満了の都度、定時株主総会で同買収防衛策の継続を決議し、直近では、平成23年6月22日開催の第39回定時株主総会において継続を決議しております。

上記対応策は、( )買付者が大量買付行為を行おうとする場合に、当社取締役会が買付者に対し、事前に当該大量買付行為に関する必要かつ十分な情報の提供を求め、それに基づいて当該大量買付行為についての評価、検討、買付者との買付条件に関する交渉又は株主の皆様への代替案の提示等を行っていくための手続(以下「大量買付ルール」といいます。)、及び( )買付者が大量買付ルールに従うことなく買付を行う等、大量買付行為が当社の企業価値・株主共同の利益を害するおそれがある場合に、必要に応じて当社が対抗措置を発動することを定めるものであります。

取締役会の判断及びその判断に係わる理由

イ．前記 イの取組みは、当社の企業価値を継続的かつ持続的に向上させるための具体的方策として策定されたものであるため、前記 の基本方針に沿い、株主の共同の利益を損なうものではなく、当社役員の地位の維持を目的とするものではないと判断しております。

ロ．前記 ロの取組みについては、大量買付行為に関する情報提供を求めるとともに、大量買付行為が当社の企業価値を毀損する場合に対抗措置を発動することを定めるものであり、前記 の基本方針に沿ったものであります。またその導入については、株主意思を尊重するため、株主総会での承認をその効力発生条件としており、さらに、取締役会によって恣意的な判断がなされることを防止するために独立委員会を設置し、取締役会は独立委員会の勧告を最大限に尊重した上で、対抗措置の発動を決議することとしている上、その判断の概要については、適時に株主の皆様へ情報開示することとしているため、その運営は透明性をもって行われます。

したがって、当社取締役会は、株主の共同の利益を損なうものではなく、当社役員の地位の維持を目的とするものではないと判断しております。

(3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は1,940千円であります。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	37,000,000
計	37,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成23年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成23年8月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	10,404,000	10,404,000	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数は100株であります。
計	10,404,000	10,404,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成23年6月30日		10,404,000		1,681,400		1,336,688

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成23年3月31日現在で記載しております。

【発行済株式】

平成23年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 347,400		権利内容に何ら限定のない 当社における標準となる株 式
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,055,300	100,553	同上
単元未満株式	普通株式 1,300		同上
発行済株式総数	10,404,000		
総株主の議決権		100,553	

【自己株式等】

平成23年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社インテージ	東京都千代田区 神田練堀町3番地 インテージ秋葉原ビル	347,400	-	347,400	3.3
計		347,400	-	347,400	3.3

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。



1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	4,337,216	5,571,481
受取手形及び売掛金	7,462,074	4,895,407
仕掛品	1,336,074	2,018,524
貯蔵品	30,760	31,959
繰延税金資産	971,606	919,486
その他	338,011	514,208
貸倒引当金	4,699	4,699
流動資産合計	14,471,043	13,946,367
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物（純額）	2,037,271	2,052,333
器具備品（純額）	439,110	416,331
土地	1,998,156	1,998,156
リース資産（純額）	755,995	711,175
その他（純額）	91	83
建設仮勘定	305	750
有形固定資産合計	5,230,930	5,178,831
<b>無形固定資産</b>		
のれん	1,022,324	933,999
その他	1,326,641	1,349,927
無形固定資産合計	2,348,965	2,283,926
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	233,092	234,976
繰延税金資産	1,096,469	1,113,638
その他	1,279,627	1,259,325
投資その他の資産合計	2,609,190	2,607,941
<b>固定資産合計</b>	10,189,086	10,070,699
<b>資産合計</b>	24,660,129	24,017,066

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,587,783	1,431,803
短期借入金	183,512	257,989
未払法人税等	1,046,059	60,139
賞与引当金	1,367,878	711,747
ポイント引当金	278,152	325,714
役員賞与引当金	21,500	5,900
その他	1,622,736	3,065,867
流動負債合計	6,107,622	5,859,161
固定負債		
長期借入金	2,000,000	2,080,000
退職給付引当金	2,201,701	2,220,074
役員退職慰労引当金	29,000	29,000
その他	564,733	512,582
固定負債合計	4,795,434	4,841,657
負債合計	10,903,057	10,700,819
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,681,400	1,681,400
資本剰余金	1,336,688	1,336,688
利益剰余金	11,302,819	10,850,843
自己株式	532,923	532,923
株主資本合計	13,787,984	13,336,007
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,552	10,198
為替換算調整勘定	46,268	34,516
その他の包括利益累計額合計	36,716	24,318
少数株主持分	5,804	4,557
純資産合計	13,757,072	13,316,246
負債純資産合計	24,660,129	24,017,066

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
売上高	7,940,695	7,435,861
売上原価	5,405,563	5,293,116
売上総利益	2,535,132	2,142,745
販売費及び一般管理費	1,717,649	2,011,779
営業利益	817,482	130,965
営業外収益		
受取利息	248	301
受取配当金	2,678	2,976
その他	6,254	7,014
営業外収益合計	9,181	10,292
営業外費用		
支払利息	9,968	11,034
為替差損	5,879	9,026
リース解約損	-	6,965
その他	4,414	5,059
営業外費用合計	20,261	32,085
経常利益	806,402	109,172
特別利益		
貸倒引当金戻入額	261	-
株式割当益	10,304	-
特別利益合計	10,565	-
特別損失		
移転関連費用	-	20,050
退職給付制度改定損	12,634	-
投資有価証券評価損	1,123	-
特別損失合計	13,758	20,050
税金等調整前四半期純利益	803,209	89,122
法人税、住民税及び事業税	159,878	5,288
法人税等調整額	210,407	34,508
法人税等合計	370,286	39,797
少数株主損益調整前四半期純利益	432,922	49,325
少数株主損失( )	1,276	1,526
四半期純利益	434,199	50,852

【四半期連結包括利益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	432,922	49,325
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,973	646
為替換算調整勘定	1,490	12,031
その他の包括利益合計	2,483	12,677
四半期包括利益	430,439	62,002
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	431,628	63,250
少数株主に係る四半期包括利益	1,188	1,247

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
(1) 連結の範囲の重要な変更 従来、連結子会社であった株式会社アスクレップ・メディアは、会社清算の手続きが終了したため、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。 また、当第1四半期連結会計期間において、常州英徳知聯恒信息科技有限公司を設立したことにより、連結の範囲に含めております。
(2) 持分法適用の範囲の重要な変更 該当事項はありません。

【追加情報】

当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
1 当社においては、資金調達の安定性を確保しつつ、必要に応じた機動的な資金調達を行なうことにより、資金効率の向上を図ることを目的としてコミットメントライン契約を締結しております。 当連結会計年度末におけるコミットメントライン契約に係る借入未実行残高等は次のとおりであります。 なお、本契約には財務制限条項が付されております。	1 当社においては、資金調達の安定性を確保しつつ、必要に応じた機動的な資金調達を行なうことにより、資金効率の向上を図ることを目的としてコミットメントライン契約を締結しております。 当四半期連結会計期間末におけるコミットメントライン契約に係る借入未実行残高等は次のとおりであります。 なお、本契約には財務制限条項が付されております。
コミットメントライン設定金額 3,000,000千円	コミットメントライン設定金額 3,000,000千円
借入実行残高 "	借入実行残高 "
借入未実行残高 3,000,000千円	借入未実行残高 3,000,000千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれん償却額は、次のとおりであります。

前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
減価償却費 270,884千円	減価償却費 314,542千円
のれん償却額 93,571 "	のれん償却額 88,324 "

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月24日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	502,839	50	平成22年 3月31日	平成22年 6月25日

- (2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月22日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	502,828	50	平成23年 3月31日	平成23年 6月23日

- (2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント			合計 (千円)
	市場調査・コンサルティング (千円)	システムソリューション (千円)	医薬品開発支援 (千円)	
売上高				
外部顧客への売上高	5,264,038	1,100,847	1,575,809	7,940,695
セグメント間の内部売上高 又は振替高				
計	5,264,038	1,100,847	1,575,809	7,940,695
セグメント利益又は損失( )	548,959	9,254	277,778	817,482

(注)セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント			合計 (千円)
	市場調査・コンサルティング (千円)	システムソリューション (千円)	医薬品開発支援 (千円)	
売上高				
外部顧客への売上高	5,152,965	1,011,224	1,271,671	7,435,861
セグメント間の内部売上高 又は振替高				
計	5,152,965	1,011,224	1,271,671	7,435,861
セグメント利益又は損失( )	157,138	41,552	15,380	130,965

(注)セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
1株当たり四半期純利益(円)	43.17	5.06
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	434,199	50,852
普通株式に係る四半期純利益(千円)	434,199	50,852
普通株式の期中平均株式数(千株)	10,056	10,056

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。



## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年 8月12日

株式会社インテージ  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 井 上 智 由 印  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 守 谷 徳 行 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社インテージの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社インテージ及び連結子会社の平成23年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。